

## 広島港レポート（その22）

2021年12月20日

株式会社ひろしま港湾管理センター コンテナカンパニー

広島港国際コンテナターミナルにおいて、11/22（月）午後から尾道市立高須小学校5年生児童・教諭合わせて総勢162名の見学会を実施した。昨年から続いているCOVID-19の猛威による度重なる緊急事態宣言や外出自粛ムードにより、残念ながら年度始めより見学依頼を受けていた小学校5校中2校から見学中止連絡を頂いた。9月末で緊急事態宣言が解除したことにより、待望の見学会を実施する運びとなったが、担当教諭によると秋に社会科見学が組まれていることから、通常は工場見学を実施する事が多いとのこと。しかし、今年・昨年とウィルス蔓延防止のため見学依頼を断る企業も多く、見学場所に苦慮していたと話してくれた。

さて、ターミナル見学内容であるが日によって異なり運の要素が強い。天候はもちろんの事、船の隻数、バース、荷役作業など様々な状況に応じてオペレーター各社にも協力を依頼し、前日に見学内容を最終調整する。あいにく当日は本船予定が無く、当然ガントリークレーン作業もなかった。更に天気予報は雨のため、見学日和とは間違っても言えない残念な日である。しかしながら、午後より雨が収まるという天気予報を信じ、折角の見学会を有意義にするための工夫として、40ftコンテナ（ドライ・リーファー）をオペレーターに依頼して見学用に設置することで直接触れる体験をしてもらった。児童からは施設説明の際「コンテナには何人入れますか？」という様な奇妙な質問が飛び出す事もあり、これが面白い。これには説明より実際入ってもらう事で体験してもらう。特にリーファーコンテナは事前に凍る温度まで下げておくことで、寒いながらも児童には評判が良い。大人を対象とした見学では施設や荷役機械など港湾用語を交えて説明するが、児童には難しい言葉を並べるよりも、身近な物に例えることや実体験を重視することで、普段関わる事の少ない‘みなと’に興味を持ってもらう主旨だ。わずか1~2時間の見学で専門用語を1つ2つ覚えて帰るよりも、「面白かった！」という声と共に、楽しい思い出を持帰ってくれたら幸いだ。

この先、港湾業界にとっても課題である運送ドライバーや荷役作業員不足をクリアするためには、まずは我々が‘みなとの仕事’としての魅力を示し、子供たちに関心を持たせない事には、将来の職業選択肢に入らないと感じている。

### コンテナ見学・体験



### 施設説明





## 編集後記

港湾業務と言えば、屈強な男達が船着き場で汗水流して荷役労働をする3Kというイメージが定着しているのか、あまり人気がありません。身近に見える瀬戸内海にはコンテナターミナル以外にも、漁港・フェリーポート・マリーナ・海水浴場・造船所・木材港など生活の豊さに繋がる魅力的な施設があります。しかし、我々の様に現在は港湾業に携わる者であっても、学生時代に進路として考えた者は、さて何人いるでしょうか。ちなみに私は全く候補には挙がりませんでした。何故か流れついた場所という感じもあり、これには頷く方もいるのではないのでしょうか。これからは港湾労働者の笑い声が飛び交う働きやすい環境整備と共に‘港湾’のイメージアップに寄与したいところです。

